

# 台湾との技術交流2022

水循環・まちづくり・防災グループ 阿部 充 主席研究員 麓 博史

## 1. はじめに

リバーフロント研究所では、2001年に台湾の財団法人七星農田水利研究發展基金会と「河川水辺環境の技術協力」について合意し、毎年相互訪問をしながら台湾との技術交流を続けてきました。残念ながら近年は、新型コロナウイルスによるパンデミックの影響で2020年は中止、2021年はWEB会議という形での開催となりました。今年度は3年ぶりに訪台、訪日を通し技術交流を行いましたので、それぞれの概要について報告します。

## 2. 訪台 [10月13日～14日]

「グリーンサステナビリティのための革新的水戦略」と題した台湾国際水週間の一環として、「気候変動下での洪水防止と適応戦略」をテーマとした技術交流のセッションに、当研究所からは塚原代表理事、土屋審議役、麓主席研究員、滋賀県立大学の瀧准教授（WEB）が参加し、麓主席研究員からは「地球温暖化を受けての洪水計画の適応策と流域治水」、瀧准教授からは「定量的な氾濫原管理に関する滋賀県の取組」について発表しました。台湾側からは、「農業用遊水地の洪水リスク管理への適用」、「洪水シミュレーションモデルとデータサービスの統合」について発表があり、流域治水の取組について意見交換をしました。

また、新北市三峡区の三峡河の視察を行いました。この街は、災害対応のための築堤の計画がある一方で、約100年前に赤レンガ風にデザインされた水辺の観光地であり、水辺と一体となった整備が課題としてありました。住民等と意見交換をした結果、景観を壊さないよう洪水時（台風）のみに銅板を設置する等の工夫がなされていました。



写真1 技術交流のセッションの様子

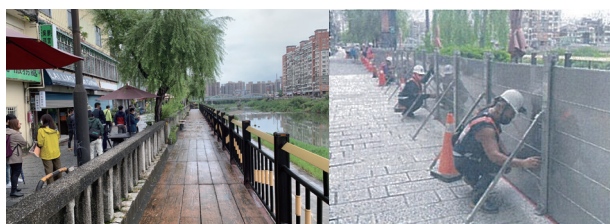


写真2 景観に配慮された洪水対策



写真3 赤レンガ風にデザインされた街並

## 3. 訪日 [10月7日～18日]

10月7日～11日に2グループ、10月14日～18日に2グループの訪日団が、遠賀川、筑後川、鴨川、琵琶湖、荒川彩湖等の現地視察を行い、勢田業務執行役、麓主席研究員、風間次長が一部行程に同行するとともに、リバーフロント研究所で意見交換を実施しました。

鴨川の現場では、鴨川公園や魚道、飛び石等について視察をするともに納涼床等の河川空間の利用について意見交換を実施しました。また、琵琶湖の現場では、滋賀県と守山市に案内していただき、胴長を履いて琵琶湖に入り、滋賀県の突堤整備による湖岸再生による産卵場の再生や環境保全団体と企業・行政の連携協働による小さな自然再生について視察を行いました。



写真4 鴨川の視察の様子



写真5 琵琶湖の視察の様子（守山市長と）

## 4. おわりに

日本と台湾は国土の特徴がよく似ており、昨今激甚化する災害への対応面から、両国の技術交流はますます重要となるため、引き続き交流を深めてまいりたいと思います。